

# [ 目 次 ]

2002・3

		ページ
SKYLIGHT 〈今月の焦点〉	金星探査計画発進	岩上直幹 126 中村正人
EUREKA 〈研究紹介〉	中間赤外微細構造輝線でさぐる大質量星形成の現場 — 超コンパクトHII領域の電離星 —	岡本美子 134
天球儀 〈読物〉	N体シミュレーション晩夏の学校	小久保英一郎 144
シリーズ	《海外研究室事情 (27)》 <b>Stanford Linear Accelerator Center (SLAC)</b> スタンフォード線形加速器センター	半田隆信 148
雑報	日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書	今井裕 150
月報だより		151

## [ 表紙説明 ]

超コンパクトHII領域 K3-50Aの金属イオン $\text{Ne}^+$ ,  $\text{Ar}^{2+}$ ,  $\text{S}^{3+}$ からの微細構造輝線放射の分布 (カラー; 減光補正ずみ. 白く抜けているところは値が小さいか観測がないところ) と11.7ミクロン像 (等高線). 図の横軸・縦軸は, 赤経・赤緯 [arcsec] で, いずれも[NeII]の南東ピークからのオフセット量で示してある. ハワイ・マウナケア山にある8.2 mのすばる望遠鏡に, 中間赤外線分光撮像装置COMICSを搭載して取得した. 超コンパクトHII領域は, 主系列に達して間もない大質量星が, 周囲に残っている分子雲の残骸を電離して形成している電離領域で, 大質量星形成過程の研究トピックの一つである. 本観測では, 0.4"と極めてシャープな分解能を達成している. 従来, 超コンパクトHII領域のように小さくて若い構造においては, しばしば電離星が一つしかないと仮定されて議論されていた. しかし, ここに示した[NeII] 12.8  $\mu\text{m}$ 放射の複数のピークとして示されるように, 複数の大質量星が生まれている可能性があることがわかってきた.

(EUREKA 参照)